

# 今を生きる子どもたち Ⅱ

## 貧困と格差の拡大のなかで

②

「ただいまー」とランドセルを置く間もどかしい子どもたち。「おかえりー」と笑顔で迎える指導員。学童保育は、仕事などの事情で保護者が家庭にいない子どもたちの放課後の生活の場、居場所です。

### 学校や塾…多忙

「親たちの働く時間が長くなり、子どもたちは学校、塾、習い事と忙しい」と話すのは、首都圏のある市の学童保育指導員、戸山倫子さん。「落ち着きがなかったり、さびしさを抱えていたり。学童保育でたくさん遊べることはとても大事なんです」と続けます。市立小学校の教室を使い、父母会が運営する学童保育です。家庭や体育館を使って遊べます。子どもたちにはさまざまな

事情があります。忘れ物を注意されるなど学校でいやなことがあったり、友だちとけんかしたり。戸山さんはいま「気分を変え、人間関係のなかで気持ちを修復し、折り合いをつける時間が必要です。それができる学童保育の存在がより切実になってきていると思います」

絵合わせ遊びで「ママ」を捨てながら、「ママいないんだ。私と同じ。ママとパパ、離婚したから」ときさやいた2年生のカホちゃん。1年前は、ささいなことで同年年の子とよくぶつかっては泣いていました。「最近では、あまり泣かなくなりました」ともう一人の指導員ダイキさんがいいます。怒ってキレると隠れてしまっていたユウジくんは、だんだん、見えるところに座るよ

# 折り合い付ける時間



室内でじゃれる子どもたち—ある学童保育で (提供写真)

きた母親の一人は「指導員の方たちは、親の話をよくうけとめてくれる。子育てについてこまやかにアドバイスしてくれる頼もしい存在です」と語っていきました。

### 関係終わらない

戸山さんは昨年、家出した卒業生(高校生)の家族の相談相手になって、可能な援助をしてきました。「一室40人程度という『顔の見える関係』がつくれる規模が大事ですね。子どもを真ん中にして、保護者と一緒に、子どもを育てる卒業しても、ずっと関係は終わらないんです」

うになりました。下級生と手をつなぐのを嫌がる同級生に「あんたも1年生のとき、つないでもらったでしょ」と注意する子もいます。「指導員の役割は、子どもたちをうけとめてあげることに。ときどきはぎゅっとしたり、勤め帰りに子どもを迎えに

おなかをかいぐりかいぐりしたり。子どもたちの話をよく聞いて、しかったり、さしたり。けんかや失敗の実体験のなかで、子どもたちは着実に成長していきます」とダイキさん。

泣くな。指導員の出る幕はありませんでした。(文中仮名)

(つづく)